



賀茂神社文書

仁尾の古文書群 ～中世仁尾の繁栄～

中世以降、中央の有力な寺社や貴族の荘園として、また良港を有する流通拠点として、仁尾の町は大いに栄えてきました。それを証明するものの一つとして、町内の至る所に無数に存在する寺社が挙げられます。鎌倉時代中期にはかなりの数の寺院が存在していたと考えられ、室町時代中期にはおよそ30カ所に上りました。それは寺院に残る仏像や寺社の古文書から、うかがい知ることができます。今回はそれら古文書の数々を紹介します。

まず、平安時代に創建された^{覚城院}には、1207年から1544年にかけての文書25点が残っています。その中には^{覚城院}の末寺を記したものが、それらの数から当時の繁栄^{かもしんじや}ぶりがうかがえます。

同じく平安時代創建の賀茂神社の文書11点の中には、飢餓に苦しむ農民が小さな息子を売り渡

した「人身売買」を示す文書もあり、地主等の隆盛の陰に潜む、当時の農民の窮状を示しています。

南北朝期から室町時代にかけての常德寺の文書からは、寺の創建年代やその後の歴史を知ることができ、また、神社の^{しんじん}神人(神社に仕えて社務の補助や雑役に当たった下級神職など)が本来の仕事だけでなく、兵船を操って都などで活躍した様子が明らかになります。

以上の3つの文書は、いずれも市の有形文化財に指定され、大切に保管されています。

戦国時代に長宗我部元親の侵攻により、寺社を庇護した有力者を失うと、多くの寺社は荒廃の憂き目に遭いましたが、現在も仁尾の町並みを歩くと出会う寺院の数々、そして古文書が、当時の隆盛を偲ばせます。

<生涯学習課>

今月の市民力

粟島ふる里劇団は、平成13年に座長の山北友好さんと武内信和さん、上田護さんを中心として活動を始めました。劇団員は20人で平均年齢75歳。市内外の芸能祭や敬老会、イベントなどに多数出演しています。山北さんは「練習は、公演の1カ月前ぐらいから、毎日しています。演技を見て、楽しく笑ってもらえたらうれしい。みんなの生きがいですよ」と笑顔で話してくれました。とにかく劇団の皆さんは元気があふれていて、楽屋裏でも舞台と変わらないぐらいワイワイと楽しそうでした。これからも元気いっぱい楽しい演劇を見せてください。

